Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

第十講
過去問実践演習　２０１５年第一問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

昨日机に向かっていた自分と現在机に向かっている自分、両者の関係はどうなっているのだろう。身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っていることは確かである。しかし、その違いを認識できるのは、その違いにもかかわらず成立している不変の自分なるものがあるからではないのか。こういった発想は根強く、誘惑的でさえある。だが、（ア）このような見方は出発点のところで誤っているのである。このプロセスを時間的に分断し、対比することで、われわれは過去の自分と現在の自分とを別々のものとして立て、それから両者の同一性を考えるという道に迷いこんでしまう。過去の自分と現在の自分という二つの自分があるのではない。あるのは、今働いている自分ただ一つである。生成しているところにしか自分はない。

過去の自分は、身体として意味として現在の自分のなかに統合されており、その限りで過去の自分は現在の自分と重なることになる。身体として

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

統合されているとは、たとえば、運動能力に明らかである。最初はなかなかできないことでも、訓練を通じてわれわれはそれができるようになる。そして、いったん可能となると、今度はその能力を当たり前のものとしてわれわれは使用する。また、意味として統合されているとは、われわれが過去の経験を土台として現在の意味づけをなしていることに見られるとおりである。現在の自分が身体的、意味的統合を通じて、結果として過去の自分を回収する。換言すれば、回収されて初めて、過去の自分は「現在の自分の過去」という資格を[a]カクトクできるのである。

統合が意識されている場合もあれば、意識されていない場合もある。したがって、現在の自分へと回収されている過去の自分が、それとして常に認識されているとは限らない。むしろ、忘れられていることの方が多いと思われる。二十年前の今日のことが記憶にないからといって、それ以前の自分とそれ以後の自分とが断絶しているということにはならない。第一、二十年前から今日現在までのことを、とぎれることなく記憶していること自体不可能である。重要なのは、何を忘れ、何を覚えているかである。つまり、自分の出会ったさまざまな経験を、どのようなものとして引き受け、意味づけているかである。そして、そのような過去への姿勢を、現在の世界への姿勢として自らの行為を通じて表現するということが、働きかける

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

ということであり、他者からの応答によってその姿勢が新たに組み直されることが、自分の生成である。そしてこの生成の運動において、いわゆる自分の自分らしさというものも現れるのである。

　イこの運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない。つまり、自分の自分らしさは、自らがそうと判断すべき事柄ではないし、そうあろうと意図して実現できるものでもない。具体的に言えば、自分のことを人格者であるとか、bコウケツな人柄であるとか考えるなら、それはむしろ、自分がそのような在り方からどれほど遠いかを示しているのである。また、人格者となろうとする意識的努力は、それがどれほど真摯なものであれ、いや、真摯なものであればあるほど、どうしてもそこには不自然さが感じられてしまう。ここには、自分の自分らしさは他人によって認められるという逆説が成立する。このことは、とりわけ意識もせずに、まさに自然に為（な）される行為に、その人のその人らしさが紛（まご）う方なく認められるという、日常の経験を考えてみても分かるだろう。

　自分とはこういうものであろうと考えている姿と、現実の自分とが一致していることはむしろ稀（まれ）である。それは、現実の自分とはあくまで働きであり、その働きは働きの受け手から判断されうるものだからである。しかし、そうであるならば、自分の自分らしさは他人によって決定されてしま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

いはしないか。ここが面倒なところである。自分らしさは他人によって認められるのではあるが、決定されるわけではない。自分らしさは生成の運動なのだから、固定的に捉えることはできない。それでも、自分らしさが認められるというのは、自分について他人が抱いていた漠然としたイメージを、一つの具体的行為として自分が現実化するからである。しかし、[ウ]その認められた自分らしさは、すでに生成する自分ではなく、生成する自分の残した足跡でしかない。

いわゆる他人に認められる自分の自分らしさは、生成する自分という運動を貫く特徴ではありえない。かといって、自分で自分の自分らしさを捉えることもできない。結局、生成する自分の方向性などというものはないのだろうか。

生成の方向性は生成のなかで自覚される以外にない。ただこの場合、何か自分についての漠然としたイメージが具体化することで、生成の方向性が自覚されるというのではない。というのは、ここで自覚されるのは[c]イゼンとして生成の足跡でしかないからである。生成の方向性は、棒のような方向性ではなく、生成の可能性として自覚されるのである。自分なり、他人なりが抱く自分についてのイメージ、それからどれだけ自由になりうるか。どれだけこれまでの自分を否定し、逸脱できるか。この「……でな

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Mission
６０分で２５／４０点を突破せよ！

い」という虚への志向性が現在生成する自分の可能性であり、方向性である。そして、これはまさに自分が生成する瞬間に、生成した自分を背景に同時に自覚されるのである。

　このような可能性のどれかが現実のなかで実現されていくが、それもわれわれの死によって終止符を打たれる。こうして、自分の生成は終わり、後には自分の足跡だけが残される。

　だが、本当にそうか。なるほど、自分はもはや生成することはないし、その足跡はわれわれの生誕と死によってはっきりと限られている。しかし、働きはまだ生き生きと活動している。ある人間の死によって、その足跡のもっている運動性も失われるわけではない。つまり、（エ）残された足跡を辿（たど）る人間には、その足の運びの運動性が感得されるのであり、その意味で足跡は働きをもっているのである。われわれがソクラテスの問答に直面するとき、ソクラテスの力強い働きをまざまざと感じるのではないか。

　自分としてのソクラテスは死んでいるが、働きとしてのソクラテスは生きている。生成する自分は死んでいるが、その足跡は生きている。正確に言おう。自分の足跡は他人によって生を与えられる。われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される。そして、自分が生成することを止めてからも、その働きが可能であるとするならば、

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

Anatomy of Victory　本文分析

その可能性はこの現在生成している自分に含まれているはずである。そのように、自分の可能性はなかば自分に秘められている。オこの秘められた、可能性の自分に向かうのが、虚への志向性としての自分の方向性でもある。

（池上哲司『傍らにあること―老いと介護の倫理学』）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠「このような見方は出発点のところで誤っているのである」（傍線部ア）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈡「この運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない」（傍線部イ）とあるが、なぜそういえるのか、説明せよ。

㈢「その認められた自分らしさは、すでに生成する自分ではなく、生成する自分の残した足跡でしかない」（傍線部ウ）とはどういうことか、説明せよ。

㈣「残された足跡を辿る人間には、その足の運びの運動性が感得される」（傍線部エ）とはどういうことか、説明せよ。

㈤「この秘められた、可能性の自分に向かうのが、虚への志向性としての自分の方向性でもある」（傍線部オ）とあるが、どういうことか。本文全体の論旨を踏まえた上で、一〇〇字以上一二〇字以内で説明せよ（句読点も一字と数える）。

㈥傍線部a、b、cのカタカナに相当する漢字を楷書で書け。

a　カクトク　　b　コウケツ　　c　イゼン

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈠	㈡	㈢	㈣

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

㈥

a
b
c

㈤

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

本講義の参考文献一覧

最難関大学の受験生が一科目に使える時間は本当に限られています。ですから、参考書もできるだけ厳選しておくべきでしょう。受験生には次の本を薦めます。

受験生用

「入門！論理学」（中公新書）野矢茂樹
「論理トレーニング１０１題」（産業図書）野矢茂樹
「東大現代文でロジカルシンキングを鍛える」（ＫＡＤＯＫＡＷＡ）柳生好之

より発展的な学習へ（合格後に読んでみてください）

私の講義を聞いて、「もっと論理学について知りたい」と思う方もいると思います（実際に授業ではそういう声を聞きます）。この要望に対して私は「まずは大学に合格しなさい」ということにしています。最難関大学の受験科目は多岐にわたり、その学習範囲は膨大です。ですから、私は最短で合格できるルートを示すようにしています。

ただし、本来の勉強の醍醐味は「知れば知るほど、さらに知りたくなる」ということだと思います。そこで私は「大学に入学したら、こんな本を読んでみたらどうだろう」と提案することにしています。皆さんにもその醍醐味を味わっていただきたいので、「予備校の講義テキストにはない」参考文献一覧をつけておきます。ぜひ、合格後に読んでみてください。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

1、日本語の文法的分析について

「概説　日本語」（朝倉書店）北原保雄
「日本語の文法」（ひつじ書房）　高橋太郎など
「日本語文法入門ハンドブック」（研究社）　加藤重広
「入門　日本語の文法」（アルク）村田水恵
「古典文の構造」（右文書院）中村幸弘、碁石雅利

2、日本語（日常言語）の論理的分析について

a、理論理解系

「入門！論理学」（中公新書）野矢茂樹
「論理学」（東京大学出版会）野矢茂樹
「本当にわかる論理学」（日本実業出版社）三浦俊彦
「議論のルール」（NHK 出版）福澤一吉
「新装版　集合とはなにか」（講談社ブルーバックス）竹内外史
「日常言語の論理学」（産業図書）オールウド、アンデソン、ダール
「論理学をつくる」（名古屋大学出版会）戸田山和久

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

b、実践論理力養成系

「新版　論理トレーニング」（産業図書）野矢茂樹
「論理トレーニング」（産業図書）野矢茂樹
「論理トレーニング101題」（産業図書）野矢茂樹
「論理のスキルアップ」（春秋社）アン・トムソン
「論理パラドクス」（二見書房）三浦俊彦
「論理サバイバル」（二見書房）三浦俊彦
「論理的思考の技法Ⅰ」（法学書院）鈴木美佐子
「論理的思考の技法Ⅱ」（法学書院）鈴木美佐子
「文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング」（NHK出版）福澤一吉
「論理表現のレッスン」（NHK出版）福澤一吉
「法科大学院適性試験［推論・分析力］解法の論理ブック」（実務教育出版）吉岡友治、阿藤俊一
「判断推理がみるみるわかる！解法の玉手箱　改訂版」（実務教育出版）資格試験研究会
「標準　判断推理　改訂版」（実務教育出版）田辺勉

3、論理学の思想的背景について

「分析哲学入門」（講談社）八木沢敬
「分析哲学の誕生」（勁草書房）日本科学哲学会
「分析哲学講義」（筑摩書房）青山拓央

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

「言語哲学」（勁草書房）W.G. ライカン

「ウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』を読む」（ちくま学芸文庫）野矢茂樹

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第十講　過去問実践演習

2015年　第一問
池上哲司『傍らにあること—老いと介護の倫理学』

要旨

過去の自分と現在の自分という二つの自分があるというのは誤りであり、あるのは現在の自分だけである。過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分に統合されている。その過去を統合する営みは、他者からの承認を必要とする。しかし、それだけでなく今までの自己像を否定する可能性を考えることによって、自己像は固定化されることなく生成という運動が行われるのである。自分の死後は自分による生成は行われないが、自分の足跡を辿る後世の人が生成を引き出す。自分の死後も生成が引き出される可能性を考慮して、自己を生成するということが起こる。このように後世の人々が抱く自己像を考慮して、既存の自己像を否定する可能性を考えるということが、自己の生成には含まれている。

解答　（40点）

㈠（6点）
過去の自分と現在の自分は異なる二つのものではなく、過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合されているものだから。

解答ポイント
① 過去の自分と現在の自分は異なる二つのものではなく（3点）
② 過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合されているもの（3点）

㈡（6点）
自分の生成は、過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すことだが、この意味づけは意のままにならぬ他者からの承認を必要とするから。

解答ポイント
① 自分の生成は、過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すこと（3点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

② この意味づけは意のままにならぬ他者からの承認を必要とする（3点）

㈢（6点）

他者から認められただけの自分らしさは、既存の自己像を否定する可能性を含むものではなく、その自己像の具現化でしかないということ。

解答ポイント

① 他者から認められただけの自分らしさは、その自己像の具現化でしかない（3点）

② 既存の自己像を否定する可能性を含むものではなく（3点）

㈣（6点）

先人の自己像を具現化した行為にその先人らしさを認めるか否かを判断する新たな生成の可能性が、後世の人には感じられるということ。

解答ポイント

① 新たな生成の可能性が後世の人には感じられる（3点）

② 先人の自己像を具現化した行為にその先人らしさを認めるか否かを判断する（3点）

㈤（10点）

過去の具体的行為を意味付け、現在の自己像を不断に作り直す生成には、他者の承認が必要であるが、その他者には現在の人だけでなく、後世の人も含まれることを想定することにより、現在認められている自己像を自ら否定する可能性が自覚されるということ。

解答ポイント

① 過去の具体的行為を意味付け、現在の自己像を不断に作り直す生成　㈠（3点）

② 他者の承認が必要である　㈡（2点）

③ その他者には現在の人だけでなく、後世の人も含まれることを想定する　㈣（2点）

④ 現在認められている自己像を自ら否定する可能性が自覚される　㈢（3点）

㈥　a獲得　b高潔　c依然（各2点）

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

解説

㈠ 傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると「このような見方は」という部分と、「誤っている」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「このような見方」であるが、第一段落二文目三文目にあるように「身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っている」が、「その違いを認識できるのは、その違いにもかかわらず成立している不変の自分なるものがあるから」という「発想」＝①である。

この「発想」が「出発点」のところで間違っているということを論証するためには、これだけでは不十分である。よって「出発点」＝「身体的にも意味的にも、昨日の自分と現在の自分とが微妙に違っている」の説明をさらに求める。すると第一段落七文目八文目に①「過去の自分と現在の自分という二つの自分がある」のではない。「あるのは、今働いている自分ただ一つである」とある。それを詳しく説明したのが第二段落一文目で、②「過去の自分は、身体として意味として現在の自分のなかに統合されており、その限りで過去の自分は現在の自分と重なる」とある。よって、「昨日の自分」と「現在の自分」という考え方が誤りであることがわかる。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈡ 傍線部理由説明問題

傍線部の飛躍を埋める論証をする問題である。傍線部を分析すると、「この運動を意識的に制御できる」という部分と、「考えてはならない」という部分の間に飛躍がある。よって、この飛躍を埋める論証となる部分を本文中に求める。

まず「この運動」であるが、第三段落八文目にある①「他者からの応答によってその姿勢（＝そのような過去への姿勢）が新たに組み直される」、「自分の生成」である。そして、「そのような過去への姿勢」は第三段落七文目「自分の出会ったさまざまな経験を、どのようなものとして引き受け、意味づけているか」である。

これだけでも良さそうだが、「他者からの応答によって」という部分を詳しく説明したものとして、第四段落五文目に②「自分の自分らしさは他人によって認められるという逆説」とあるのでこちらも参考にする。自分の意のままにならない「他人によって認められる」ことなのだから、「この運動を意識的に完全に制御できると考えてはならない」のである。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(三) 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「その認められた自分らしさ」という指示語、「生成する自分」という筆者特有の表現、「生成する自分の残した足跡」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、それらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「その認められた自分らしさ」であるが、第五段落七文目にあるようにX「自分について他人が抱いていた漠然としたイメージを、一つの具体的行為として自分が現実化する」ことで他人に認められた「自分らしさ」である。そして①この「現実化された」「具体的行為」のみが、「生成する自分の残した足跡」である。

次に「生成する自分」であるが、「Xのみ」だと「足跡」になってしまう。であれば、別の条件が必要となる。その条件は第七段落五文目六文目にあるように、X「自分なり、他人なりが抱く自分についてのイメージ」がある上で、②Y「それからどれだけ自由になりうるか。どれだけこれまでの自分を否定し、逸脱できるか」。「この『……でない』という虚への志向性」が現在生成する自分の可能性であり、方向性である。つまり、「生成する自分」というのは、「XかつY」である。今回の問題は「生成する自分」ではなく、「生成する自分の残した足跡」を解答しなければならないので、「YでなくXのみ」と解答する。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

(四) 傍線部内容説明問題

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。傍線部を分析すると、「残された足跡」という比喩表現、「その足の運びの運動性」という比喩表現がそれぞれポイントであることがわかる。よって、これらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「残された足跡」であるが、第八段落にあるように「生成」は「われわれの死」によって終わり、「後には自分の足跡だけが残される」とあることから、「死後の自分らしさ」であるとわかる。

次に「その足の運びの運動性」であるが、(三)で捉えたように② 「運動性」＝「生成」というのは、「他人が抱くその人についてのイメージ」を「否定」することが必要であった。ただし、現在「自分」は死んでいるのだから、「否定」する

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

のは「自分以外の人」つまり「残された足跡を辿る人間」である。それを示しているのが、第十段落四文目五文目にある「自分の足跡は他人によって生を与えられる。われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される」という部分である。つまり「その人らしさのイメージ」を「否定」することで①「新たな可能性をもたらす」＝「生成する」のは「他人」＝「残された足跡を辿る人間」なのである。

以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

㈤　**傍線部内容説明問題**

傍線部のわかりにくい部分を、詳しくわかりやすく説明する問題である。ただし、この問題は「本文全体の趣旨を踏まえた上で」とあることから、全体把握問題として考える。傍線部を分析すると「この秘められた、可能性の自分」という指示語と筆者特有の表現、「虚への志向性としての自分の方向性」という筆者特有の表現がそれぞれポイントであることがわかる。よってこれらのポイントを説明するための根拠を本文中に求める。

まず「この秘められた、可能性の自分」であるが、第十段落六文目七文目に「そして、自分が生成することを止めてからも、その働きが可能であるとするならば、その可能性はこの現在生成している自分に含まれているはずである。そのように、自分の可能性はなかば自分に秘められている」とある。そのように、自分が生成することを止めてからも、その働きが可能である」というのは㈣で捉えたポイントである。

また、「その働き」であるが、第十段落五文目「われわれの働きは徹頭徹尾他人との関係において成立し、他人によって引き出される」とある。これは㈡で捉えた「自己像の生成は他者からの承認を必要とする」である。

そして「われわれの働き」とは㈠で捉えた「過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合」＝㈡で捉えた「過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すこと」である。

以上のポイントをまとめると、①「過去の経験を意味づけ現在の自己像を作り直すこと」（「過去の自分は身体的にも意味的にも現在の自分として統合」）するには、②「他者からの承認を必要とする」。そして、その「他者」には③「後世の人」も含まれる。

次に「虚への志向性としての自分の方向性」であるが、㈢で捉えた「既存の自己像を否定する可能性を含むもの」のことである。つまり、「後世の人も自己像を認めるか否かを判断する」ことを想定して、④「現在の他者や自分が抱いてい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

る自己像を否定する可能性を自覚する」ということである。
以上のポイントをまとめて解答を構成するとよい。

Ⓒ RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。